

2013 年 8 月 28 日

平成 25 年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議
関東東海・水田作畑作部会 冬作研究会開催要領

関東東海北陸農業試験研究推進会議

関東東海・水田作畑作部会長 中央農研 生産体系研究領域長 島田信二
同副部会長 作物研 稲研究領域長 根本博

1. 趣旨

関東東海地域における土地利用型農業の推進には、冬作物の生産性や品質の向上が重要な課題である。近年、小麦「農林 61 号」に替わり「さとのそら」や「きぬあかり」などの新品種が生産現場に導入され、単収、品質の向上に大きく貢献しつつある。しかし、さらなる安定多収化、高品質化を図っていくには、試験研究機関における一層の取り組みが不可欠であり、農水省の委託研究や実用技術開発事業を通じて各県および農研機構で精力的に取り組まれている。

そこで、これら新品種を導入した各県における小麦の高品質多収安定生産に向けた取り組みを概括し、成果を共有するとともに、超多収栽培技術の開発では先駆的な水稲作での取り組みを参考として、さらなる小麦の増収に向けた議論を行う。これらにより、関東東海地域における冬作物の生産性・品質の向上、生産体系の改善を図ることを目的として本研究会を開催する。

2. 開催日時 平成 25 年 9 月 17 日（火）13：15～18 日（水）12：00

3. 開催場所 農研機構 中央農業総合研究センター 第 1 研究本館 1 階 大会議室

4. 議 事

1) 開会挨拶 (9/17、13：15～30) 水田作畑作部会長
農林水産技術会議事務局
関東農政局

2) 重点検討事項の検討 (13：30～17：00)

「小麦新品種の高品質・多収・安定生産に向けた取り組みと、さらなる増収への展望」

===== 《話題提供演題については仮題》 =====

(1) 「小麦新品種の高品質・多収・安定生産に向けた取り組み」

(1)-1 「茨城県の取り組み」

茨城県農業総合研究センター農業研究所作物研究室

遠藤 千尋

(1)-2 「栃木県の取り組み」

栃木県農業試験場研究開発部麦類研究室

主任研究員

関和 孝博

(1)-3 「埼玉県の取り組み」

埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所

主任

箕田 豊尚

(1)-4 「三重県の取り組み」

三重県農業研究所伊賀農業研究室

主任研究員

中山 幸則

(1)-5 「愛知県の取り組み」

愛知県農業総合試験場作物研究部作物研究室

主任研究員

林 元樹

(2) 農研機構における社会的要請等対応研究「小麦の収量限界向上に向けた基盤的研究」の紹介

農研機構・作物研究所麦研究領域

主任研究員

高山 敏之

(3) 「多収性水稻の開発研究について」

農研機構・作物研究所稲研究領域長

根本 博

(4) 総合討論

3) 新品種候補、新配付系統と品種決定に関する情勢報告 (9/18、9:00~11:00)

4) ドイツ・イギリスの小麦多収栽培現地視察報告 (11:00~11:30)

中央農業総合研究センター 生産体系研究領域

主任研究員

渡邊 和洋

5) その他 (11:30~12:00)

5. 参集範囲：農林水産技術会議事務局、関東農政局、東海農政局、関東東海地域都県農業関係試験研究機関、普及機関及び行政部局の関係者、作物研究所、中央農業総合研究センター、その他部会長が必要と認めた者

6. 連絡先 (事務局)

中央農研 温暖平坦地水田輪作研究 (関東水田輪作) グループ 渡邊和洋

電話：029-838-8512 / 8822, FAX：029-838-8484

E-mail: kanto-suiden@naro.affrc.go.jp

7. その他

資料作成、参加申し込み、その他については、別途事務局より連絡する。

